

はじめに

校長 河合 保 秀

これからの社会は、人工知能やロボティクス等の先端技術がより一層高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会のあり方が激しく変化する「Society5.0」の時代とされています。そのような時代を生き抜くためには、知識（ある事柄について知っていること）の量だけではなく、正解のない問いに対して考え続けられるための知恵（物事の道理を悟り、適切に対応する力）やレジリエンス（逆境に負けずに前向きに人生を切り拓いていく力）の高さが必要となります。また、そうした社会に対応するための高大接続改革、特に大学入試改革は紆余曲折を示しながらも進められています。

さて、本校は昨年度までの5年間の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」指定を終え、今年度から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」校に指定され、新たな取組を実施してまいりました。SGH指定研究で得た教育実践を基盤として、高等学校新学習指導要領への移行を鑑み、生徒の主体的なテーマ設定による「総合的な探究の時間（課題研究）」を教育課程の核に位置づけ、文型や理型などの類型にとらわれることなく、すべての生徒が意欲的に取り組める方策を検討してきました。具体的には、教員の教科専門性の枠を越えた支援体制作りを図るとともに、「総合的な探究の時間」をとおして育成したい生徒像や資質・能力を共有するためのグランドデザインを策定したところです。

さらに、SGH指定研究でお世話になった大学や国際交流に係る関係機関、行政機関等とコンソーシアムを構築していただき、一層連携を深めることができたことが大変意義深いことであったと思っています。今後はこのコンソーシアムの指導や協力を得ながら、生徒の活躍の場を広げるとともに、グローバルな視点の意味するところをより深く考えた、積極的な取組にしていくことが課題であると認識しています。

また、本校はご承知のとおり、120 有余年の歴史と伝統のある学校で、4万人になろうとする卒業生が各分野において活躍されています。そうした卒業生による同窓会の皆様が、本校の目指す教育に対しご理解をいただき、ご支援をいただいていることも大きな強みであると感じています。創立 120 周年の年には「グローバル人材育成支援基金」を創設していただき、留学等を希望する生徒を支援いただいています。さらには、本校のこれまでの取組を評価いただき、今年度よりある企業様から、短期における語学研修のための海外渡航を支援いただいたことも有難い成果でした。

ただ、新型コロナウイルス感染防止のために、3月より教育活動の自粛規制が図られ、オーストラリアのバイロンベイハイスクールへの研修旅行を中止せざるを得なくなりました。研修旅行の成功に向けて尽力いただいた関係の皆様や、とりわけ、研修を深めるために万全の準備を進めていた生徒諸君には申し訳ないことでした。本校の様々な取組は成果のみを求めるのではなく、その取組のプロセスにおける小さな学びや気づき、失敗をも大切にしたいと考えています。今回の研修旅行に向けた取組で得た経験を必ずや次の機会で見かしてくるものと期待をしています。

この実施報告書は、令和元年度における本校の取組の成果や課題等をまとめたものです。多くの方々にご覧いただき、ご批評やご助言をいただくことができればと願うところです。

最後になりましたが、県教育委員会事務局各課をはじめ、運営指導委員の皆様、連携いただいた大学や関係機関、企業の皆様、本事業のコンソーシアム構成機関の皆様にはご理解、ご支援を賜りましたことを厚くお礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。